

R6年度 全国学力・学習状況調査の結果と分析

江別市立大麻西小学校

【全国学力・学習状況調査 大麻西小の概要】

4月18日（木）に6年生を対象に行われた全国学力・学習状況調査の結果については、7月下旬に新聞やテレビ、インターネット上で公表されました。本校にも個々の児童の結果が送付され、本調査を実施した6年生の児童を通じて保護者の皆様にお知らせいたしました。

本校の6年生全体の傾向としては、全国の平均正答率と比べて、『国語』は「上回っている」、『算数』も「上回っている」という結果でした。

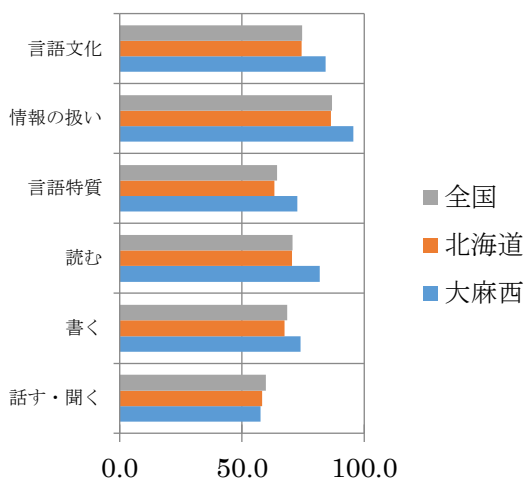
『児童質問紙』の回答では、学習習慣が身につけている規範意識が高いなどよい面がある反面、SNS やゲームの使用などが課題となりました。

調査結果から見られた傾向

出題された問題や難易度、調査を受けた児童が6年生のみということもあり、今回の調査は国語科、算数科の学力の一端を示すものでありますが、今年度4月に2～5年生を対象に実施した標準学力検査（NRT）においても、学習内容の理解状況については全国学力・学習状況調査結果と同様な傾向も見られております。

したがって、その結果を分析しながら、学校では、基礎的・基本的な学習内容の定着及び家庭学習の習慣化、より望ましい生活習慣の確立をめざし、今後も右記の取組を重点として進めてまいります。

《 国語（全国平均を「上回っている」） 》



【正答率の高かった事項】

- 「言語文化」「情報の扱い」「言語特質」「読む」「書く」の領域で全国平均を上回りました。

【正答率の低い事項と改善策】

- 「話す聞く」、「書く」領域が課題でした。

※話すこと・聞くことの領域

- 目的や意図に応じて、日常生活の中から課題を決め、伝え合う内容を検討できるかどうかをみる問題

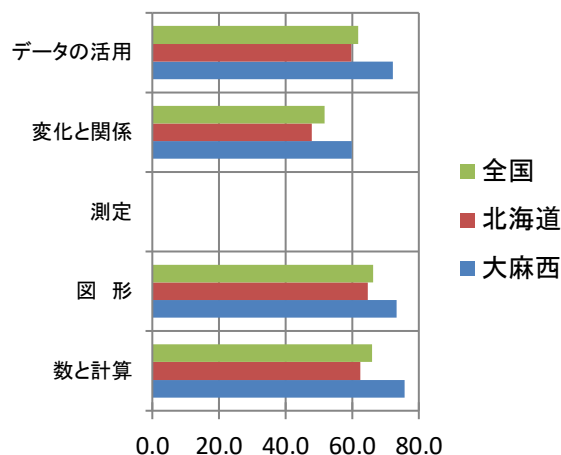
改交流する前に、話し合いの目的や方向性、聞き手の求めていることを知り、それらを踏まえ、展開や内容を想定し、伝え合う内容を検討する場面を設定する。その際、集めた材料を聞き手が知りたい内容と自分が伝えたい内容に整理したり、目的に応じて優先順位を考えたりできるようにするような学習の設定を行う。

※書くことの領域

- 目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き出しを工夫できるかをみる問題

改事実と感想、意見とを区別して書くためには、事実を客観的に書くこととともに、その事実と感想や意見との関係を十分捉えて書くことが重要である。また、事実と感想、意見とを明確に区別して書くためには、文末表現に注意することも重要である。上記のことを子ども達に意識させ、書く活動を行っていく。

《 算数（全国平均を「上回っている」） 》



【正答率の高かった事項】

○全領域全問題全国平均を上回りました。

【正答率の低い事項と改善策】

△下記の問題の正答率は全国的に低く、上記でも述べたように本校では全国平均は上回っているものの、正答率を見ると高くない状況でした。

(3) 直径 22 cm の球の形をしたボールがあります。

このボールがぴったり入る立方体の形をした紙の箱の体積を調べます。

この立方体の形をした紙の箱の体積が何 cm³かを求める式を書きましょう。
ただし、紙の厚さは考えないものとします。また、計算の答えを書く必要はありません。

誤答の例は、以下のとおりです。

- ① 22×22 と解答している児童は、球の直径の長さや立方体の一辺の長さの関係を捉えることはできているが、立方体の一つの面の面積の求め方を式にしていると考えられる。
- ② 22×3.14 と解答している児童は、円の直径と円周率から体積を求めることができると誤って捉えていると考えられる。



⑤体積の単位とこれまで学習した球の直径の長さや立方体を構成する要素との関係を考察できていないことから、深い理解を伴う知識の習得に課題があります。身の回りの形から図形を捉え、図形を構成する要素を見だし、体積を求めるために必要な情報を判断できるような場面の設定を行う。

《 児童質問紙 から見える成果と課題 》

【成果の一部を紹介します】

- 平日、一時間以上家庭学習に取り組むは大きく平均を上回りました。
- いじめはどんな理由があろうともいけないことだと思っているや人の役に立つ人間になりたいの項目は全員が肯定的な回答をしました。

【課題の一部を紹介します】

- ▲SNS や動画、ゲームの使用で1時間以下の子も多くなりましたが、4時間以上長く使っている子の割合が全国平均を大きく上回りました。

今後に向けて



共育

- 学校の取組
- 各ご家庭へのお願い

【経営の重点】

『たくましく共に生きる 麻西の子』

《高い目標・大きな夢へねばり強く挑戦する児童の育成》

～ チームあさにしとして子どもの未来を組織的に語り合える教職員～

I 確かな学力(知)

- ① 教育課程(単元・年計)の適切な「R把握・P編成・D実施・C評価・A改善」
 - 年間指導計画(題材配当表)への定期的な確認・記録の蓄積による授業時数等の進行管理
 - 付けたい力を明確にした学習指導・行事の実施
 - 児童の発達段階に即した地域の特性及び施設・資源を生かした学習活動の見直し。教科指導と連動したカリキュラム作りを推進する。
 - 各種学力調査やチャレンジテスト等の適切な実施・分析に基づく指導の改善(指導と評価の一体化)
- ② 日常の授業に直結する校内研修の推進
 - 「西小学習の手引き」「大麻8ルール」をもとに具体的な方向性や取組内容(学習規律・学習環境の統一)を行う。
 - 単元計画の中に対話を位置付けた授業改革の推進を行う。
 - 指導案検討、授業交流、公開授業、ミニ研修、実技研修を通して、目指す指導の共有をする。
 - ICT 機器を活用した授業を行い、考えを表現し伝え合う子の育成を目指す。
- ③ きめ細かな学習指導の実施
 - 算数科の授業において、児童の実態ニーズに応えた指導体制を確立し、主体的に学ぶ態度と基礎基本の定着を図る。
 - 個別最適化の学習によるのびしろ層の解消と定着層の更なる向上を目指す。

II 豊かな心(徳)

- ① 基本的な生活習慣の定着や規範意識、思いやりをはぐくむ道德教育の工夫
 - 年間指導計画に基づく、特別な教科道德の授業実践の積み重ねを行う。
 - 児童会や行事と連携した道德的実践力の育成
- ② 教育資源を活用した授業の推進
 - 児童の発達段階に即した地域の特性及び施設・資源を生かした学習活動を推進する。(体験的な活動の工夫・外部人材の活用)
- ③ 学習環境の整備
 - 安心して学ぶことができる学習環境を目指し、可能な限りの環境整備と維持促進を図る。

III 健やかな体(体)

- ① 生きる力の基盤となる健やかな体をはぐくむ活動の工夫
 - 新体力テストの適切な実施・分析に基づく体育授業の改善を図る。
 - 子どもたちが運動に親しみ、楽しく運動を行う態度の育成や体力の向上を図るため、「どさん子元気アップチャレンジ」への積極的な取組をする。
 - 授業や各種取組を通して、運動の日常化を図る。
- ② 基本的な生活習慣の確立
 - 「早寝・早起き・朝ご飯」運動の推進を各種便り等で啓発し、家庭の協力を得る。

<各ご家庭へのお願い>

学校では、これからもご家庭と共に、子供たちが生き生きと学校生活を送ることができるよう、全職員で力を合わせていきます。今後ともご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。